

医療部会第2回研修会報告

日時:令和6年10月12日(土) 10:30-15:00

場所:ウインクあいち 1309室 + zoomによるライブ配信

参加者:63名(現地参加26名)

共催:大塚製薬株式会社

内容

午前の部 10:30-12:00

講演1:嚥下機能からみた栄養の考え方、対応方法について

講師:朝日大学歯学部 口腔病態医療学講座

摂食嚥下リハビリテーション学分野講師

木村 将典 先生

講演2:病院での栄養補助食品の活用事例(特に口腔面を意識した活用方法)

講師:朝日大学病院 栄養管理部管理栄養士

浅野 一信 先生

午後の部 13:30-15:00

講演3:リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算取得への取り組みの実例

講師:日本赤十字社 愛知医療センター名古屋第二病院

医療技術部栄養課 管理栄養士

畠山 桂吾 先生



今回の研修会では、「摂食嚥下と栄養」「令和6年新設のリハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算」の2テーマについて学びました。

午前の部では、2名の先生からご講演をいただきました。

まず木村先生より摂食嚥下機能について解剖学的な説明や、VF・VE検査の実際の動画を交えた詳細な解説がありました。声門閉鎖不全や骨棘などの具体的な要因についてもご教示頂き、摂食嚥下障害についての理解を深める良い機会となったと感じます。

また、普段の臨床でもすぐに役立つ実践的な情報や、摂食嚥下と栄養との関わりについて重要な知見も示されていました。

次に浅野先生からは、病院における栄養補助食品の活用事例についてご教示頂きました。実際のコストや退院後の補助食品へのアクセシビリティなど、現実的な要素を踏まえた内容でした。また栄養補助食品について、もはや「補助」ではなく「主」になり得ているとの知見がありました。高齢化が進み、種々の要因で通常食からの栄養確保が不十分となる症例が増えている現状において、「補助食品」が「主栄養源」になっているとのお話は実感できるものでした。

午後の部では、畠山先生より自施設の取り組みのご紹介を中心に、幅広いお話がありました。令和6年新設のリハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算について、どのように開始したのか、その結果や大変だった話など、ここでしか聞けないお話も赤裸々に語って頂きました。他施設栄養部門責任者の苦悩をじっくりと聞いたことはありませんでしたので、興味深い内容でした。新しい加算の算定に向けた具体的な取り組み方として、大変参考となるお話でした。

